



エヌケー

建築人

11

2019



大阪ホンマもん

建築人

11
2019

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	Gallery 建築作品紹介
	S 社社員食堂
	設計 大林組 施工 大林組
	VILLA DE BLANCA INTERNATIONAL
	設計 アーバンガウス研究所 施工 澤村
	四畳半キューブの家
	設計 HAMADA DESIGN 施工 ジェイプランニング
11	記憶の建築 松隈 洋
	大佛次郎記念館 一九七八年
	物語化する様式建築のジレンマ
14	理事会報告 建築相談室から 編集後記

建築士会の活用を！

社会貢献部門長（業務支援） 芳村 隆史



社会貢献部門（業務支援）は、一、耐震委員会（行政と連携した木造住宅耐震事業の推進）、二、インスペクション委員会（建築士によるインスペクション制度の確立とインスペクターの養成及び業務化）、三、建築相談委員会（消費者・建築士への支援を目的とした建築相談／空き家相談）、四、住宅を設計する仲間達委員会（消費者に対する住宅設計・建設の支援）、五、マンション維持管理支援委員会（マンション維持管理に関する相談及び相談員の養成）、六、鑑定業務支援委員会（建築紛争解決や鑑定に必要な専門知識を持つ人材の育成）の六委員会があり、勉強会・セミナー・関連イベント等を広く建築士会会員に向けて実施（発信）しています。

この部門の特色は、各委員会が実際に業務を推進しているところにあります。委員会で活動することにより、ほかの団体や会社では得られない幅広い視野の業務ノウハウを会得することができ、人脈づくりもできます。

あなたが望む、設計に役立つ見地、スキルを活かせる仕事の機会、人脈づくりがここにはあります。会社での業務、人の厚みにおいても建築士会をもっと活用してください。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪市内を南北に貫く御堂筋と平行に走る四ツ橋筋。その沿道東側に面して建つ「長瀬産業株式会社大阪本社」ビル群を今回は取り上げる。

長瀬産業は、京都で創業者である長瀬伝兵衛氏が天保三年（一八三二年）に染料卸問屋「鱗形屋」として創業した。世界的な化学メーカーの日本総代理店として業績を伸ばし事業を拡大した。その後、大阪に木造で大阪本店を建設したが、一九二三年（大正一二一年）に発生した関東大震災による甚大な被害を鑑み建替えを決意した。

建物の設計は、初代通天閣や千日前の楽天地などの設計を担った設楽貞雄氏に依頼をし、昭和三年（一九二八年）に竣工した。建物は鉄筋コンクリート造の地下一階・地上三階建てで、その後一層分が増築されている。外壁はスクラッチタイル張りとなされ、アーチ型の窓がリズム良くシンメトリーに配置され、街並みに調和をもたらしている。その後、東側に四階建てを建設し、昭和五七年（一九八二年）には竹中工務店により南側に一〇階建ての新館が建てられた。当初、設計担当であった永田祐三氏は旧館の建替えを提案したが、当時の長瀬誠造社長が歴史ある建物を残すことを希望した。この決断が、現在に至る長瀬産業の歴史そのものを風景に刻むこととなった。

土地の金額が高騰し企業が収益の安定化を求め、貸ビルを建てて入居することが近年増えたが、長瀬産業のような企業の顔が見える建物が益々少なくなるかもしれない。

センター教授)
定員 120名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

大阪府ヘリテージマネージャースキルアップ講座
民家の屋根と社寺の屋根
茅葺きと檜皮葺き
11/24

茅と檜皮の寺社等の修復資材としての重要性
についての上映と講演です。
日時 11月24日(日) 12:45～16:30
上映会 空から見た岩湧山茅場の四季
講演1 屋根から見る民家建築の歴史と地域性
大場修(京都府立大学大学院教授)
講演2 社寺建築の屋根構造の発達と植物
屋根葺材
江面嗣人(岡山理科大学教授)
見学会 檜皮採取見学会と伽藍見学
会場 天野山金剛寺講堂
定員 100名
資料代 1,000円
※参加証の発行はありません(定員に達した場合のみ連絡)。詳細は本会HPをご覧ください。

大阪府ヘリテージマネージャースキルアップ講座
岩湧山茅場 茅刈ミニ体験
重要文化財左近家住宅茅降ろし体験と修理見学会
1/12

●岩湧山茅場 茅刈ミニ体験
岩湧山山頂の茅場にて茅刈を体験します。
日時 1月12日(日) 9:00～12:00
集合時間 8:30
集合場所 滝畑コミュニティセンター駐車場
定員 30名(小学5年生以上)
●重要文化財左近家住宅 茅降ろし体験と
修理見学会
重要文化財である茅葺民家の茅降ろしを
体験します。
日時 1月12日(日) 13:30～16:00
集合時間 13:00
集合場所 滝畑コミュニティセンター駐車場
定員 50名(小学5年生以上)
資料代 1,000円(午前午後共通)
※午前午後いずれか一方の参加も可
※参加証の発行はありません(定員に達した場合のみ連絡)。詳細は本会HPをご覧ください。

鑑定業務支援委員会第7回セミナー
賃貸住宅の原状回復と近隣工事トラブル
11/15 CPD2単位(予定)

本会の電話相談で、増加している賃貸住宅の
原状回復義務と近隣工事に関するトラブルの
現状と対応について解説します。
日時 11月15日(金) 18:00～20:00
会場 大阪府建築士会会議室
講師 本会委員会委員
定員 50名(定員に達し次第締切)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円

平成31年度文化遺産総合活用推進事業
「はじめよう、文化財の活用」
11/17、12/8、12/14、1/25、2/2、2/15

本講座は毎回異なる国登録有形文化財を会
場とした「まちあるき」や「ワークショップ」とい
った体験型の講座です。また其々の文化財所有
者からは文化財の保存及び活用の取組事例
や課題などを伺います。体験を通じての疑問や
意見を所有者や講師との質疑応答で解決しな
がら文化財の活用を通じた保存活動ができる
力を磨いていただきます。
①11/17(日) 正木記念邸(正木美術館):
和菓子作りと茶道体験
②12/8(日) 山田家住宅:
稲わらでつくる2Wayリース
③12/14(土) 島本町立歴史文化資料館(旧麗天館):
大工の伝統技術「手刻み・墨付け」体験
心光寺:
④1/25(土) 書画・篆刻で観音廻り
三木楽器本店ビル:
⑤2/2(日) 船場の中心で講談を叫ぶ
⑥2/15(土) 願得寺:能にふれる
※時間 ①～③・⑤～⑥:13:30～16:30
④:14:00～17:00
募集 各回24名(事前申込制 先着順)
参加費 各回1,500円

「歴史文化を活かしたまちづくり」講座
～古墳をはじめ歴史文化のある街の建築やま
ちのデザインの探求に向けて～
11/18 CPD2単位(予定)

堺の「百舌鳥古墳群周辺地域」や「環濠都市
地域」を例に、歴史文化を活かしたまちづくりに
ついて勉強します。
日時 11月18日(月) 18:30～20:00
会場 大阪府建築士会会議室
内容 「百舌鳥古墳群周辺地域の景観形成について」
堺市建築都市局都市景観室 福知正高
「歴史的風致維持向上計画について」
堺市文化観光局文化財課 小林初恵
定員 30名(定員に達し次第締切)
参加費 無料

建築とITの融合「ドローン技術講習会」
～ドローンを建設現場でどう活かせるのか～
11/22 CPD3単位(予定)

柏原市の曹洞宗観音寺の境内と築100年を経
過した本堂をお借りして、ぶどう畑の上空でドロー
ンを使った屋根の点検講習や飛行体験を行います。
日時 11月22日(金)
13:00 集合(時間厳守)
13:15～17:00
座学、屋根点検と飛行体験、質疑応答
集合 カタシモワイナリー直売所
(柏原市太平寺2-7-33)
定員 30名(定員に達し次第締切)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
懇親会 ワイナリー近辺で開催予定(希望者のみ)
参加費4,000円程度

建築士の会いずみ野
**国際規格のスケートリンク「関空ア
イスアリーナ工事見学会」**
11/25 CPD2単位(予定)

「関空アイスアリーナ」の工事現場見学会を開
催します。工事施工者の浅沼組様の説明によ
る施設見学を通して、コンセプトや施工技術を
学びます。
日時 11月25日(月)
14:00 集合(時間厳守)
14:30～15:00 施設説明
15:00～16:00 施設見学
集合 JR阪和線・南海本線りんくうタウン駅
改札口前
定員 30名(定員に達し次第締切)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
学生無料(※学生証提示にて)
※工事中にて施設内の駐車場は利用できません。

平成31年度文化遺産総合活用推進事業
入門!! 大阪講談の楽しみ方
11/29、11/30

数百年の間語り継がれてきた講談をご堪能下
さい。講談実演は「真田幸村」です。
日時 11月29日(金) 18:30～20:00
日時 11月30日(土) 13:30～15:00
講談実演 「真田幸村」 出演:玉秀斎
参加費 1,500円/1回(要予約)
会場 大阪府立中之島図書館本館3階
レンタルスペース2(11/29、30共)

令和元年度景観まちづくり講座の
受講生募集(全8日間)
11/30、12/7、1/11、1/18、2/1、2/15、2/29、3/14
CPD1日3単位(予定)

地域の景観形成のために特長ある景観をまち
づくりに活かす専門的知識・能力をもった人材
育成を図るため、講座を開講します。
魅力ある景観とビュースポット(視点場)を発見
したり、古地図を活用するなど新しい手法によ
る実践的な演習や、同時に景観制度と計画・
ルールづくりも学ぶことができます。専門家が解
説するまち歩きもあり、ぜひご受講ください。
日程 11/30、12/7、1/11、1/18、2/1、2/15、
2/29、3/14(毎回土曜日の午後1時より)
定員 20名(定員になり次第締め切ります)
開催地 本会会議室及びまち歩き場所
受講料 会員10,000円 会員外15,000円
(テキスト等資料代を含む)
申込期間 11/1～11/20

「生田神社・神戸八宮と国際都市
宗教施設」を巡る
12/7 CPD4単位(予定)

神戸生田神社と一宮神社から四宮神社(ヨノ
ミヤ)と神戸国際都市施設のモスクと関帝廟を
ゆっくりと歩き地域の隠れた魅力を発揮するこ
との、醍醐味について、さまざまな視点から見学
します。

日時 12月7日(土) 13:00～17:30
集合場所 12:30 JR三宮駅西口
定員 30名(申込先着順)※定員に達し次第締切
参加費 会員1,500円 会員外2,000円
懇親会費 5,000円程度(三宮にて開催)

賛助会員委員会・地域委員会「北河内」共催
**パナソニックモデルハウス・ミュージ
アム見学会**
12/9 CPD3単位(予定)

パナソニックの木造耐震工法テクノストラク
チャーのモデルハウスとミュージアムを見学いた
します。
日時 12月9日(月) 13:15～17:00
解散後、懇親会(参加費4,500円程度)を予定
集合場所 13:00 京阪「西三荘」改札前
募集定員 約30名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
(資料代等含む、懇親会費別)

2019年建築関係団体合同忘年懇
親会
12/13

本会および、大阪府建築士事務所協会、日本
建築家協会近畿支部、日本建築協会の会員
および賛助会員が集う建築関係団体合同忘
年懇親会です。ぜひご参加下さい。
日時 12月13日(金) 18:00～20:00
会場 太閤園 大阪市都島区網島町9-10
会費 7,000円
申込締切日 11月22日(金)

令和2年在阪建築15団体合同新年
交礼会
1/6

建築、建設、建材設備、構造、積算、学術の在
阪建築15団体による合同新年交礼会です。ぜ
ひご参加下さい。
日時 1月6日(月) 15:00～16:00
会場 リーガロイヤルホテル2階「山楽の間」
大阪市北区中之島5-3-68
会費 3,000円
申込締切日 12月3日(火)

第16回海外研修旅行
「建築から見たハワイの魅力を探る」
2/20～25 CPD申請予定

ハワイの歴史的建築や近代建築を視察します。
また現地の日系事務所の方々との情報交換と
交流をもつ予定です。
日程 2月20日(木)～25日(火)(4泊6日)
宿泊 アクアパシフィックモナークホテル
参加費 215,000円
※飛行機、ホテル、昼食1回と夕食2回は含む
(但し、燃油量サーチャージ17,000円、施
設利用料は別途必要。)
定員 20名
コーディネーター 森田茂夫
(本会国際担当特任相談役)

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

大阪府知事指定講習 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》 12/4 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習会は、国土交通大臣登録講習ではありません。)
日程 12月4日(水)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

大阪府知事指定講習 既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》 1/29 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法です。この機会に限界耐力計算法の技術を修得され、今後の業務に活用されますようご案内いたします。
日程 1月29日(水)
時間 9:30～16:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

建設工事の安全・健康確保講習会 ～大阪府工事入札(実績申告型)の評価点追加対象講習会～ 11/8、12/13、2/12 各日CPD3単位

設計、施工等の各段階における安全・健康確保の措置や、建築労働者の意識向上を図る取組み方法について講習を行います。
労働災害防止に関する対策を推進することにより、建築労働者の安全と健康の確保を目的としております。
日程 11/8(金)、12/13(金)、2/12(水)
時間 13:30～17:05
会場 大阪府建築士会会議室
定員 60名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円/回
後援団体会員4,000円/回
一般5,000円/回

令和元年度監理技術者講習 (監理技術者以外の方も受講可能) 11/13、1/23、2/7、3/4 CPD各6単位

建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。
日程 11/13(水)
1/23(木)、2/7(金)、3/4(水)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会HPより。

被災建築物の応急危険度判定(養成)講習会 12/16、2/19 CPD各3単位

地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。
日程 12/16(月)、2/19(水)
時間 受付12:30～、講習13:20～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講資格 大阪府内に住ままたは在勤の一級建築士、二級建築士、木造建築士並びに建築基準適合判定資格者及び特定建築物調査員
※本講習会は応急危険度判定士に登録される方を対象としています。
受講料 無料
テキスト代 税込み1,500円(特別価格)
申込・問合 一般財団法人大阪建築防災センター企画耐震部
Tel.06-6942-0190

令和元年度建築士定期講習 1/30、2/25、3/26、3/31 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成28年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。
日程・会場・定員
1/30(木) 大阪府建築健保会館 90名
※2/25(火) 大阪YMCA会館 200名
3/26(木) 大阪YMCA会館 200名
3/31(火) 大阪府建築健保会館 90名
時間 9:15～17:00(各講習日共)
受講料 12,960円(消費税込。事前振込)
申込書配布場所 大阪府建築士会及び大阪府建築士事務所協会事務局又は、建築技術教育普及センターHPからダウンロード(平成28年度受講者には、直接申込書を郵送しています。)
申込方法

上記事務局へ持参又は簡易書留による郵送
受付場所(送付場所)
※印の日程 大阪府建築士会事務局
※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。
注)各回定員に達し次第、受付を終了します。

令和元年度改正建築物省エネ法説明会及び住宅省エネ技術講習会 12/19、1/22 CPD各3単位(予定)

令和元年5月17日に公布された改正建築物省エネ法について解説します。主に戸建住宅・小規模非住宅の関連事業者向けの内容となっています。
説明会の内容
1. 改正法に盛り込まれた各措置の内容及ポイント
2. 小規模住宅・小規模非住宅に係る省エネ基準・省エネ計算方法について
3. 住宅省エネ技術講習会
日程 ①12月19日(木) ②1月22日(水)
時間 13:30～16:45(各回共)
会場 ①サンスクエア堺
(堺市立勤労者総合福祉センター)
堺市堺区田出井町2-1
②大阪国際交流センター
大阪市天王寺区上本町8-2-6
定員 ①350名 ②800名(申込先着順)
受講料 無料
※修了証(賞状タイプのみ)を希望する方は発行手数料として1,000円が必要です。
申込方法 専用のWEBからお申込してください。
<https://www.shoene.org/index.html>

既存住宅状況調査技術者講習 12/3(新規講習) CPD5単位

平成28年6月に宅地建物取引業法の一部改正され、平成30年4月から既存住宅の売買時に「既存住宅状況調査」に関する説明が義務付けられました。調査の実施は登録機関の講習を修了した建築士のみに認められておりますので、ぜひ受講ください。
日時 12月3日(火) 10:00～17:50
会場 大阪府建築士会会議室
定員 40名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込21,060円
郵送申込21,600円
申込 日本建築士会連合会HPよりお申込みください。

建築技術講習会 コンクリートに発生するひび割れの原因と対策 11/19 CPD3単位

これまでのひび割れ問題とそれに対する取組み、ひび割れの類型や発生の仕組みについて説明し、求められる制御対策について解説します。
日時 11月19日(火) 13:25～16:30
会場 大阪府建築健保会館 6階ホール
講師 中村成春(大阪工業大学准教授)

定員 120名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

建築技術講習会 近畿産業信用組合本店 現地見学会 11/26 CPD3単位

近畿産業信用組合本店は、様々な省エネ技術を導入することで従来のビルに比べて61%以上の省エネを実現しZEB Readyを達成した最先端の環境配慮建築です。今回の講習会では現地見学に加え、設計・施工についても担当者から説明していただきます。
日時 11月26日(火) 15:00～17:30
会場 近畿産業信用組合本店 5階
きんさんホール
講師 平井浩之(大成建設(株)設計部長)
永吉敬行(同)
森島克之(大成建設(株)建築部作業所長)
定員 50名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,500円
後援団体会員4,500円
一般5,500円

建築技術講習会 建築紛争における法的措置とその対応策 12/6 CPD3単位(予定)

近年、建築紛争は多様化し、行政不服審査請求や訴訟など法的措置に発展する事例も少なくありません。今年度も大阪地方裁判所裁判官と大阪府建築審査会委員の学識者を講師に迎え、建築紛争における法的措置とその対応策について、講演会を開催します。昨年までのアンケートを踏まえ、事例に役立つ事例をできるだけ多くご紹介する予定です。
日時 12月6日(金) 14:00～17:00
会場 大阪府建築健保会館 6階ホール
講師 海道俊明(大阪府建築審査会委員)
鈴木 喬(大阪地方裁判所判事)
定員 120名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円
後援団体会員4,000円
一般5,000円

建築技術講習会 見たくないことを見て 必ずくる南海トラフ地震を乗り越える 12/10 CPD3単位

平成の30年間は、昭和後半の30年間に比べ、西日本で地震による被害を多く経験しました。今後30年間の地震発生確率が70%～80%と言われる南海トラフ地震の準備過程とも言えます。日本の歴史形成と南海トラフ地震との関係、相互依存度の高い高機能化した社会問題などを通し、南海トラフ地震の被害像をあり出し、今後の対策のあり方について考えます。
日時 12月10日(火) 13:25～16:30
会場 大阪府建築健保会館 6階ホール
講師 福和伸夫(名古屋大学減災連携研究

動静レポート

会長動静

- 9/30 貝塚市長面談
- 10/ 3 交野市長面談
- 10/ 4 阪南市長、岸和田市副市長、
泉南市副市長面談
- 10/ 7 大阪府収用委員会
- 10/ 9 熊取町長、守口市長面談
- 10/11 泉佐野市長面談
岬町と空き家対策協定締結
運営委員会
- 10/16 理事会、正副会長会議
- 10/17 門真市長面談
- 10/18 枚方市長面談
- 10/21 大阪府収用委員会
- 10/25 近畿ブロック建築士会 CPD 会議



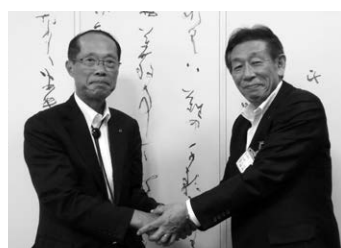
右～藤江理事、中特任顧問、藤原龍男貝塚市長
岡本会長、杉本委員、杉原専務理事



(右)
黒田 実
交野市長



(右)
土佐邦之
岸和田市
副市長



(右)
眞鍋康之
泉南市
副市長



(右)
水野謙二
阪南市長



(右)
藤原敏司
熊取町長



(右)
西端勝樹
守口市長



(左)
千代松大耕
泉佐野市長



(左)
宮本一孝
門真市長



(右)
伏見 隆
枚方市長

運営部門

国土交通省から大阪北部地震活動に対する感謝状を拝受

本会は10月12日の国土交通省の第31回住生活月間功労者表彰において、住宅

局長から感謝状の贈呈を受けました。
これは、昨年の大阪北部地震において、茨木市内の応急危険度判定活動や枚方市の罹災証明発行のための住家被害認定第二次調査協力など、復旧・復興における功績に対するものです。東京での記念式典は台風19号の接近で中止となりましたが、近年多発する地震や台風などによる災害に備え、本会の被災支援委員会活動の強化を図って行きたいと考えておりますので、会員の皆様には応急危険度判定士の資格を取得するなど、今後とも活動等へのご支援をお願い致します。

運営部門

一級・木造建築士設計製図試験を実施

本会が運営を担当する、令和元年の一級及び木造建築士設計製図試験を10月13日に近畿大学に於いて実施しました。大阪の受験者数は一級855名、木造40名でしたが、台風19号の影響により東日本の18都県の試験が中止となり、全国の受験者数は一級が4,214名、木造が325名で、例年の半数を下回りました。受験できなかった学科合格者に対する設計製図再試験は12月8日に実施します。

社会貢献部門

岬町と空き家対策に関する協定を締結

本会と岬町は10月11日に空き家の発生の未然防止、流通・利活用の総合的な対策を推進することを目的とした協定を締結しました。本会では今後、岬町と連携・協力し、空き家の利活用に伴う耐震や改修に関する相談の対応や、空き家売買時のインスペクション活用による中古住宅流通市場活性化による空き家発生の抑制等に取り組みます。



協定を締結した岡本会長と田代亮岬町長(右)

第 62 回建築士会全国大会「北海道大会」に参加して

日程：令和元年 9 月 21 日（土） 会場：函館アリーナ・花びしホテル 参加者：61 名

今回は大会前日に関西空港から新千歳空港へ。機内では右の席にオーストラリア人の女性、その隣にはイングランドから男性。札幌ドームでそれぞれのお国のラグビーを応援するという。9 月 21 日第 62 回建築士会全国大会「北海道大会」は『Re+（リクロス）明日（みらい）のまちに輝きを』というテーマのもと全国から 2,800 名以上を集め函館アリーナで盛大に開催されました。午前中は各会場でセッションが行われました。記念講演は『Between Nature and Architecture』の演題で藤本壮介氏による作品の紹介がありました。自然（生まれた場所）と人工物（学んだ場所）を融合させる設計手法はダイナミックで印象的でした。記念式典では、オープニングセレモニーとして、全国大会覇者の江差追分会の唄声から始まり、表彰式、大会アピール、

大会旗引継ぎが行われました。当会からは 61 名が参加。北野幹夫さん、津村泰夫さん、中島薫さん、西野智子さんの 4 名が連合会会長表彰を受賞されました。おめでとうございます。翌日のエキスカージョンは函館駅前から 10 時間かけて札幌駅前までバスで巡るコース。横の席には大阪士会青年委員の柯（カ）君。台湾出身の好青年とは「旅は道ずれ・・・」です。仕事の事からプライベートなことまで話題に花が咲いて楽しい旅となりました。縄文文化交流センターでは国宝の中空土偶などを見学、縄文人の知恵や創造力に感嘆するばかり。ニッカウキスキー余市蒸留所ではここでしか味わえないシングルモルトカスクを頂き、少しばかりほろ酔い気分。大阪士会の顔見知りにもそこそこで遭遇。その後小樽運河等見学を経て札幌へ。北海道大会は非常に充実

岡崎 雅（理事・運営部門長）



した、思い出に残る大会になりました。来年は広島大会（11 月 13 日～15 日）。委員の方々が赤いユニフォームで熱心に PR していました。皆さん広島へ紅葉狩りを兼ねてごぞって参加しましょう。翌、早朝の新千歳空港はヨーロッパ人であふれ返っていました。多くの人は次のラグビー観戦に向かうのでしょうか。ラグビーワールドカップの盛り上がりにもおおいに期待しましょう。



式典（大会アピール）

木造建築とまちづくり

日時：令和元年 10 月 5 日（土）13：30～17：00 会場：大阪市立阿倍野市民学習センター 参加者：45 名

前回の木造建築の技術的可能性のセミナーから続く、木造建築に特化したセミナーの第二回。

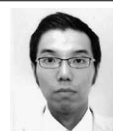
講師は大阪電気通信大学 工学部建築学科 矢ヶ崎善太郎教授がまず、『伝統建築の保存と日本の木工技術』と題して伝統建築の中にある木造の意味、考え方、先人の技術についてお話しいただいた。日本古来の建て方、仮設性、可変性、臨時性のお話、桂離宮の成り立ちから、日本古来の木造建築の美しさの理由を教えていただいた。また、茶室について、茶室は『ころ・なり・ようす』＝『好み』の創造の場であり、技術の継承の場であった。また、代表的な木造技術として、仕口継手があるが、それは『二材の一体化』、『外すことが出来る』、『仕上がりさをさりげなく見せる』にある。そこに日本の大工技術の誇るべき素晴らしさがある。日本建築の木工伝統技術は使い続けるための知恵の結集であり、手をかけることで由緒を重ね継承されるというお話であった。

次に、日本建築士会連合会 会長 三井所清典氏から『中大規模木造の実践と課題』と題してご講演いただいた。

木造で公共建築物が作れなくなった歴史をお教えいただき、昭和 62 年から緩和され大規模な木造建築が出来るようになり、自身の作品を例にご説明いただいた。地域の木工で作れる木造建築を作るべきとの考えからボルトの無いトラスの木組みを用いた工法や、五重の塔にも挑戦された事、225 年ぶりの本堂建築のお話では、継手仕口の話で、矢ヶ崎先生のおっしゃられた『さり気なく複雑な技法をする』という部分に施主の皆様が気付かれ、手仕事を見ることで大切にしたいという感情が生まれ、作り手の気持ちが伝わった例をお話しいただいた。

様々な木造建築の普及活動をされている中で、地域で木造施設が作れるようにするため、企画・設計・材料調達を含めた総合的な支援活動の話や、地域の技術者を想

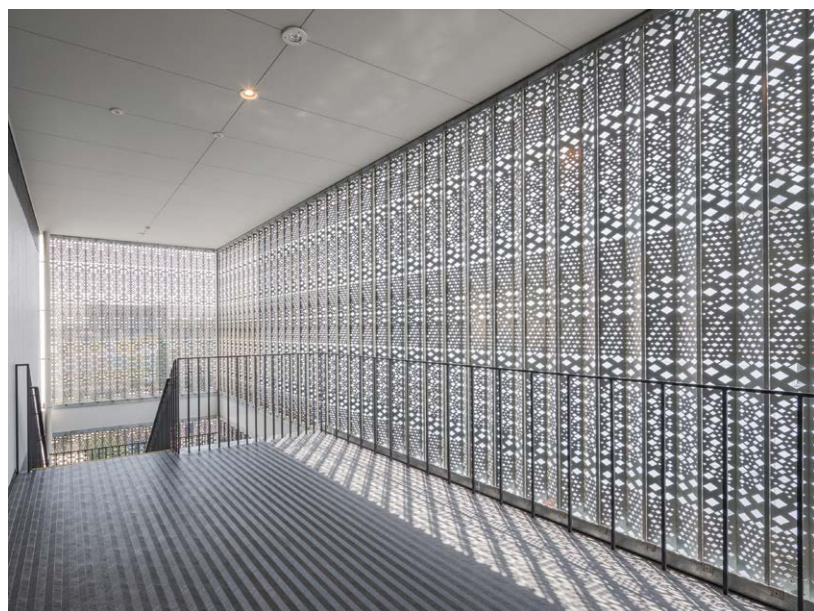
規工川和史（理事・青年委員会委員長）



定しながら、図面を書くことで、地域が豊かになるという考えをお聞かせいただいた。最後に、大阪府建築士会 副会長 中嶋節子氏のファシリテイトで講師のお二人から木造建築とまちづくりにまつわるお話をいただく中では、まちづくりに木造建築のモジュールを意識し、モジュールによる統一感を出すべきという考えをお教えいただけた。今回の講演は非常に多くの学びを得ることができる場であり、これからの木造建築の期待と新たな指針が見えた貴重な時間であった。



福島県三春町紫雲寺本堂の仕口



本計画は、従業員用食堂の建替プロジェクトである。1300 人の同時利用に対応するための席数確保と混雑緩和が大きな課題であった。課題解決のため主要動線となる廊下や階段を全てバルコニーとして外部化することで、室内はワンルームに近い整形な喫食スペースとなり必要な席数を効率的に確保することが可能となった。また、バルコニーを介した食堂の主動線を西入室・南退室のワンウェイ動線とし、利用者の集中を考慮してゆったりとしたバルコニー幅員とすることで、スムーズな動線計画を実現した。この機能的なバルコニーは混雑緩和に寄与するだけでなく、意匠的には特徴的な深い軒を形づくり、刻々と変わる光と陰による豊かで落ち着いた表情を建物の外観に与えている。

所在地：大阪市
用途：工場
竣工：2018.10
構造規模：鉄骨造
敷地面積：116,634.64㎡
建築面積：1,603.85㎡
延床面積：4,645.78㎡
写真：伸和



過疎化する福井県若狭町で古民家の移築を行い、国際拠点化を進めるブライダルドレス製造企業ALPHA BLANCA社の、寮及び国内外来客の宿泊施設とするプロジェクトである。求められる耐震性・断熱・防音・雪害対策等満たし蘇生した。古民家30件を調査し、130年前に茅葺寄棟屋根建築として創られ、70年前に移築2階切妻・1階寄棟屋根となった建築骨格の明確な作業所兼住居を譲り受けた。ワンルーム6戸の新機能とし共同住宅新築の確認申請をした。白い室内にあって茅葺時代の墨色梁は紫色に、切妻時代の白木の棟木は藤色とし、往時の記憶を抽象化した。歴史性未来性を内外空間に表し人口減少地域への未来貢献を図った。

所在地：福井県三方上中郡
用途：企業寮・ゲストルーム
竣工：2019.03
構造規模：木造2階建
敷地面積：613.83㎡
建築面積：154.85㎡
延床面積：227.80㎡
写真：URBANGAUSS



生活に必要なリビング・キッチン・浴室などの諸室を全て四畳半に統一した住宅です。一般的な住宅に比べてリビングは狭い、一方で浴室は広い。リビングは意外と落ち着いた空間となり家族の距離を縮め、一方浴室は広々としてちょっとした温泉旅館のようになった。その他の諸室も含めて四畳半キューブ8個で構成されていますが、それぞれのキューブ間には「広場」と「路地」を設けて距離を保っています。キューブの上には鉄骨柱で持ち上げられた屋根が浮き、360度のガラス欄間から様々な光が差し込みます。面積を統一することで日々新しい発見が起こる住まいです。

所在地：大阪府寝屋川市
用途：専用住宅
竣工：2018.06
構造規模：RC造+鉄骨造
+木造 2階建
敷地面積：211.24㎡
建築面積：104.76㎡
延床面積：89.43㎡
写真：笹倉洋平

倉敷市庁舎とはほぼ同時期に設計が進められ、倉敷から遠く離れた横浜の「港の見える丘公園」に建設されたのが、横浜生れの文豪・大佛次郎（一八九七～一九七三年）の遺した二万六千冊の著書と資料、愛用品や家具などを保存・展示する大佛次郎記念館である。この仕事のきっかけとなったのは、紡績工場を宿泊施設へと改造した倉敷アイビースクエア（一九七三年）の実績だった。この記念館を浦辺鎮太郎に依頼した横浜都市計画局の都市プランナー・田村明（一九二六～二〇一〇年）は、その経緯を、後に次のような回想に書き記している。

「設計は浦辺鎮太郎に頼んだ。それより少し前に、浦辺は倉敷にある古い工場をアイビースクエアとして再生させ評判になっていた。当時、古い建物の再生にはもっとも適切な建築家だった。（中略）たかが小さい領事館の改修という設計だったのに、浦辺はこの小作品にのめりこんでいた。大仏はよく横浜のニューグランドホテルで仕事をしたが、部屋はいつも港の見える三二〇号室と決っていて、『鞍馬天狗の部屋』と呼ばれていた。浦辺の事務所は大阪だが、横浜にきたときには必ずこの部屋を予約する。空いていなければ日程をずらすほどの。（中略）膨大な大仏の作品を担当者と手分けして二人で読み込んで話し合う。浦辺は大仏次郎にのめりこんでいた。」（田村明『都市プランナー田村明の闘いー横浜（市民の政府）をめざして』学芸出版社二〇〇六年）

田村がここに記しているように、大佛記念館は、当初、旧・イギリス領事館を改修する計画だった。しかし、同書の記述によれば、領事館は日米和親条約が締結された

横浜にとって由緒ある場所であり、個人の記念館とすることはいかがなものか、との市民からの投書を受けて、急ぎよ、敷地を変更したのだと言う。それでは、浦辺が担おうとした役割は何だったのか。竣工後、浦辺は次のような文章を書き留めている。

「幸いにして横浜には田村明という大プランナーが万事取り仕切っていた。私ども建築家が風土、町並を勉強する以前から横浜には行政的なマスタープランが描かれて

失われていた。そのため、その歴史を復元する意味を記念館は求められたのである。この期待に対して、浦辺はどのように応えたのだろうか。竣工時に記した文章には、次のような考え方が示されていた。

「港の見える丘公園の南に、ちょうど公園を前庭にしたような姿で大佛次郎記念館が建っている。（中略）私をはじめ、フランス山の敷地を案内された時、（中略）どんな構想ですか？」と端的な質問を受

記憶の建築

松隈 洋

大佛次郎記念館 1978 年
物語化する様式建築のジレンマ



北側正面外観



2 階サロン（大会議室）

いた。横浜は幕末開港以来ハイカラな国際都市であるが関東大震災と空襲によって意外にもそれを物語る歴史的な建造物が現存しない。その補完の意味もあるいは私の課題であったのか？（浦辺鎮太郎「風土と建築」『建築雑誌』一九八六年八月号）

この浦辺の言葉の中に、記念館が誕生した背景を読み取ることができる。ハイカラな国際都市である横浜は、関東大震災と太平洋戦争によって、歴史的な建物の多くが

らそのままにして、あまり科学的、歴史的に否定しないで下さいとお願いしている。」（浦辺鎮太郎「大佛次郎生家のイメージ」『新建築』一九七八年六月号）

ここに示されたように、浦辺は、「大佛次郎の生家」をイメージに記念館を創造しようとして試みたのである。設計を担当した所員の森本正一によれば、浦辺の生家のイメージは、大佛の「パリ好みの一面とも合わせて」、「開港期の横浜絵にあるような、煉瓦造洋風建築でフランス風に」との指示であり、もう一つ浦辺が求めたのは、大佛の作風に流れる「肌を感じる具体性」というモチーフだったという（森本正一「杉作少年の記」『建築文化』一九七八年六月号）。

こうして、赤レンガタイルに白い目地の外壁と開港期洋館風の柱型が再現され、屋根には玄昌石と銅版が葺かれ、矢橋六郎を起用した床モザイクタイルと、館長室には、大佛と縁の深い佐藤重土のデザインによる絨毯が敷かれる。また、大佛が生前に大切にしていた数十匹の中から選ばれた猫の彫像七匹が随所に設置される。そして、二階の記念室には、愛用の家具や身の回りの品により、書斎が再現されたのである。

そこには、大佛の世界を彷彿とさせるような手仕事による気品ある雰囲気漂う。しかし、この物語化された様式建築は、そのまま内発的な存在根拠を失ったポスト・モダンのジレンマを体現しているのではなからうか。楽しく創造された浦辺のメルヘン調の建築を前に、改めてポスト・モダンの意味の再考が求められているように思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

第12回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 乾 久美子



1969 大阪府生まれ
1992 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996 イエール大学大学院建築学部修了
1996～2000 青木淳建築計画事務所勤務
2000 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2011～2016 東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016～ 横浜国立大学大学院Y-GSA教授

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞 （賞状と記念盾）

建築人賞奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には賞状授与

■ 第12回 対象作品

「建築人」2019年1月号から2019年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

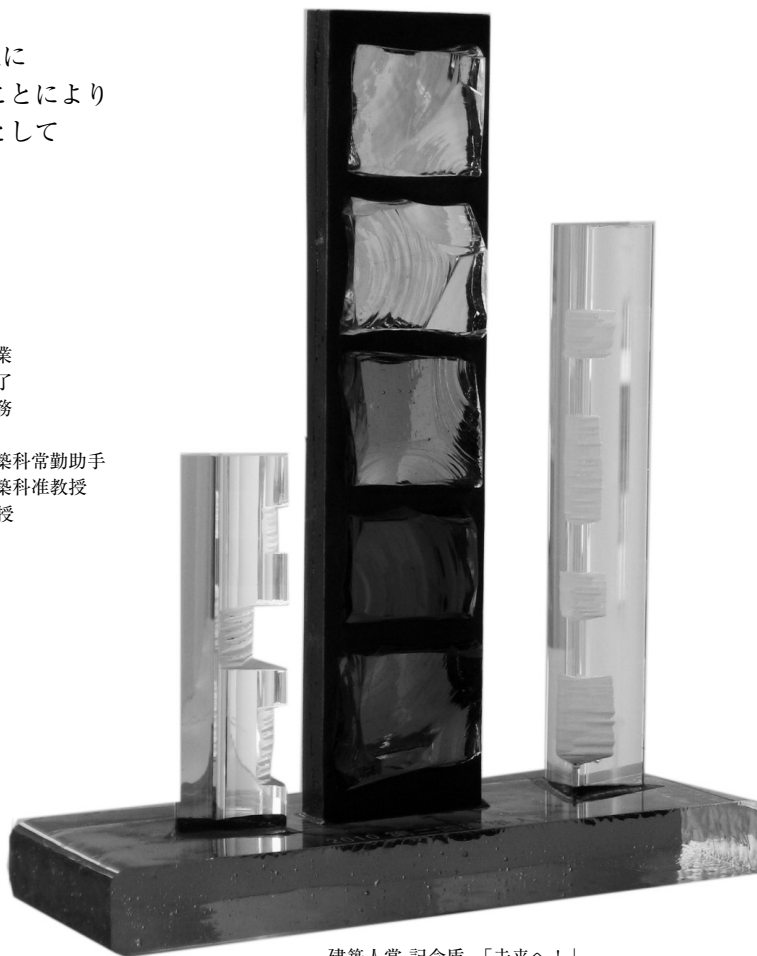
■ 受賞発表

建築人 2020年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
担当／母倉 政美

TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」

ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2019

会報誌『建築人』では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円

カラー 1ページ 10万円

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』
Gallery 建築作品掲載係まで。

登録者募集

登録者の個人ページ・・・専用のホームページ内に作成可
建築士リスト・・・数カ所の機関に配架し、広報活動を展開
設計相談・設計例展示・・・大阪市立住まい情報センター等

専用ホームページ www.jutaku-nakama.com/
登録・問合せは (公社)大阪府建築士会 隅原まで
06-6947-1961 info@aba-osakafu.or.jp

■家づくりの

『住宅
大阪府
が得意な建
あなたにピッ
お問い合わせ



公認住宅設計士
住宅を設計する
JUTAKU NAKAMA

トップページ

- 住宅を設計する仲間達とは
- 建築士に任せるメリット
- 具体的な流れ
- まんが〜家作りスリ
- 土地の選び方
- 住宅ローンに
- 建築士を初

建築士に任せるメリットは何?

ホームページの
抜粋版です

「住宅を設計する仲間達」は、住宅を設計するプロ（建築士・建築設計事務所）の集まりです。3,000人が在籍する公益の大阪府建築士会は、住宅一般の「大衆建築士の権限に対する理解を平成8年に「住宅づくりは、頼る建築士選びから。」

に対して、たくさんの想いをお持ちの方こそ 歓迎します。自衛隊の生活は自分達でつくっていく。住まい手であると同時に、つくり手を深める。そんな住まい手の住宅づくりのお手伝いができたらと考えます。住まいを創り上げていくプロセスをいっしょに楽しみましょう。

自然と住まいがやさしく調和することを心がけています。
風や光に季節を感じ、家族の一人ひとりにとって心地よく癒される住まいを「聲でおしなれに」デザインさせていただきます。
吟味した杉で体がよくなる空気をつくり、子どもから大人まで 脳を元気に健康で安全で安心して暮らせる家をつ丁寧につくらせて頂きます。

大阪府立大学建築学部の建築士を目指して、平成8年に設計する仲間達とを設計しました。

「マイホームを建てるなら、なんでもご相談ください」

当サイトでは、作品集や住宅設計の無料相談などのご案内および設計する仲間達の建築士設計事務所内、作品集、学会賞の案内などの情報提供をしています。これからつくりたい方、家づくりについて知りたい方、ぜひ私たちのサイトにアクセスしてください。

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十月十六日(水) 十六時～十八時

場所 本会会議室

出席 理事三名 監事一名

(1) 九月の当期経常増減額は、収入三、四七八、二九〇円、支出九、五三六、七七二円、差引△六、〇五八、四八二円で、本年度累計の収支差引二一、〇八三、七五三円を報告して承認しました。

(2) 台風一九号による災害について、特に平成二七年に交流協定を結んだ長野県建築士会への被災支援金として一〇万円を支出することを承認しました。また、理事から会員募金の提案があり、一定期間募ったあと、合算して寄附することとしました。

(3) 池上俊郎氏(本会会員、京都市立芸術大学名誉教授)から、山本良一氏(東京大学名誉教授が提唱する自治体が「急速に拡大する世界の気候非常事態宣言」を行い、包括的な気候変動の緩和策・適応策、持続可能な消費の推進策などを実施することを求める「気候の非常事態を宣言し動員計画の立案実施を求める請願」に対する支援依頼を受け、本会も同調することを承認しました。

(4) 府法務課から公益法人立入検査を十二月十九日に行う通知があり、関係役員・事務局が対応することとしました。

(5) 府まちづくり部による「ビュースポーツおおさか」の第一回選定が実施され、本会からの多数の提案の応募協力に対する謝辞がありました。また、本会まちづくり委員会が日本建築士会連合会の助成を受けて実施する「景観まちづくり講座」の内容にも反映してまちづくり活動の人材育成を図ります。

建築相談室から四十三

一般の相談者以外の相談 一

文 橋本頼幸

建築相談室には、一般の相談者以外にも様々な相談者が電話をかけてこられます。昨年二〇一八年の相談件数二二九件のうち約八六三%が一般の相談者ですが、残る二三七%が建築士・施工者・不動産業者・デベロッパー・役所・その他などからです。今回は台風被害に遭った建物賃借人からの相談と市役所・議員からの相談をご紹介します。

台風被害の相談一

喫茶店の営業をしているが、台風で被災して業者に修繕をしてもらったものの不満が多々ある。窓枠から雨も漏れてきた。しかし、契約書はなく口頭で契約をしただけとのこと。技術的な問題の前に整理することが多く、弁護士を入れるか民間総合調停センター(ADR)に相談をおすすめしています。

台風被害の相談二

同じような台風の被害について店舗賃借人からの相談です。店舗として借りている木造建物が台風で屋根が飛んでしまい営業ができなくなった。にもかかわらず、家主が対応してくれない。管理会社からも連絡をしてもらっているが、一向に対応してもらえない。建物の現状を専門的に見てほしい、との相談ですが、建築士として建物の状況を見たところで状況が好転するとは思えず、費用負担の問題で現地相談は見送られました。

台風被害の相談三

台風被害について施工会社からの相談もあります。とある建物の一階の耐火被覆が外れたので、耐火ボードで天井を貼ろうと思うが問題ないのか、との相談。建物の現状がわか

ないため電話で正確な判断はできません。新築当時の確認申請書を見なければ正しい補修方法がアドバイスできません。相談者は施工者なので、確認申請図面を探して自分で確認してほしいというアドバイスをしています。市役所からの相談

とある市役所の職員からの電話相談。市所有の駐車場に塀がありその延長上に民地と共有した塀がある。民地の所有者から塀を撤去してほしいといわれているが、その塀の影響範囲はどの程度になるか教えてほしいとの相談。電話担当者は、市にも技術者がいると思うので市の技術者に聞いてはどうかというアドバイスをすると、市の技術者もわからないのでここを紹介されたとのこと。相談室としても電話だけで判断できないので現地相談を案内するも、市役所が発注者となって現地相談を依頼することを即断できないため、検討して再度電話してもらうことになりました。

市議会議員からの相談

こちらもとある市議会議員からの相談。築一〇〇年越の木造二階建ての住宅の解体が突然始まった。工事の発注者がわからず、クレームを持って行く先がわからない。登記を調べることで土地の所有者は判明した。更地になって引き渡されるかどうかもわからない。どうしたらいいか?という相談。市議会議員からの相談でも個人の相談であれば一般の相談と同じです。市議会議員でも対応に困ることがあるようです。議員からの相談は、このような個人の相談だけでなく代理の相談も時々あります。その場合は内容がさらにわかりにくくなり、相談している方も相談を受けている議員も要点がわからず、直接本人から電話してもらってください、とお伝えしています。

編集後記

曾我部千鶴美

全国女性建築士連絡協議会(通称…全建女)をご存知でしょうか?全国の委員が活動報告を行い、それらの取組みからヒントを得て、自分たちの活動に活かすことを目標として毎年開催しています。全建女では、二〇一一年の東日本大震災以降、被災地域からの活動報告を行っていたいています。

この八年間で長野北部地震、熊本地震、大阪府北部地震、北海道胆振東部地震、西日本豪雨災害のような風雨災害は全国各地で発生し、毎年新たな道府県が加わっています。未曾有の大災害が毎年の様に発生している現状です。いざというときにフットワーク軽く動くことができる体制を、個人では難しいこともネットワークを組むことでできる仕組みづくりを平時にこそ考えるべきだと思います。今回は福岡県で開催され、台風一五号・一九号による被害報告があると思います。

来る令和二年は何事もない穏やかな年でありますように祈りつつ、職能集団である建築士会としてできることを考えていきたいと思っています。

建築人 11 2019

監修	公益社団法人大阪府建築士会 建築情報部門		
編集	建築情報部門『建築人』編集部		
部門長	飯田英二	笠井志保 茂籠一之 橋本頼幸 三谷勝章 若江直生 母倉政美	
委員長	高原浩之		
編集人代表	北 聖志		
編集人	梅田武宏		
	河合哲夫		
事務局	曾我部千鶴美	中和印刷紙器株式会社	
	牧野隆義		
	武藤優哉		
印刷	山本茂樹		



『銀古美 (Ginfurubi)』

大栄窯業株式会社

<http://www.daieibrand.com/>

取材：河合哲夫／建築情報部門委員

■淡路瓦のお問い合わせ先

淡路瓦工業組合

兵庫県南あわじ市湊 134

Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030

info@a-kawara.jp

<http://www.a-kawara.jp/>



400 年の歴史を持つ淡路瓦は「淡路瓦イズム」を通し、これからの時代に社会から必要とされる瓦づくりに挑戦を続けています。今年も淡路瓦イズムを実践している会社を紹介いたします。

日本三大瓦の一つ淡路瓦。特に美しい銀色に仕上げられた「いぶし瓦」の生産は日本一です。なめ土と呼ばれる粒子の細かい良質の粘土を焼き締め、最後に還元焼成による「燻し」という工程で表面に炭素の被膜を形成させて仕上げられます。その被膜が銀色の輝きを発するのです。いぶし瓦で仕上がった屋根は、鈍くモノトーンに輝く美しい日本の景観を形成してきました。

しかし一方で、その均一な美しさよりも微妙に変化する表情の面白さや、年月を経て古びた素材の味わいを求める価値観も存在します。特に古建築や伝統建築においては、黒く古びた瓦の表情が、長い年月を重ねた建物や町並みの景観に馴染むことから、それらの再生工事や瓦屋根の葺き替え工事においては、

そのような瓦を敢えて求める傾向が高まっているのです。

これらのニーズに応えることができるのが、大栄窯業株式会社が開発した「銀古美 (Ginfurubi)」です。通常よりも高い温度（約 1020℃）の還元焼成で焼き締め、「燻し」の工程を行うことなく仕上げる製法を、2 年前に完成されました。道上大輔代表取締役は、「銀古美」の瓦といくつもの採用事例を紹介してくれました。土を焼くだけで仕上げられたその瓦は、いぶし瓦よりも深く黒い仕上がりで、粘土の鉄分含有量の個体差と窯の炎が生み出す僅かな色の変化により、まるで悠久の時間が育んだかのような、深く豊かな土の表情を持っています。いぶし瓦は、表層の皮膜が経年変化で失われ、徐々に変色していきませんが、「銀古美 (Ginfurubi)」は、黒い基材そのものが仕上げになっているため、そうした変色が起こらないことも特徴です。また、高温で焼き締められることにより硬度が高く、表層から内部まで黒い素材そのものであ

るため、ほとんど傷が付くことはありません。道上さんは、銀古美 (Ginfurubi) の表面を金属で繰り返し強く擦って見せてくれましたが、全く傷が認識できませんでした。さらに高温で焼き締めることにより吸水率が低く、耐凍害性が高まったことにより寒冷地での採用も拡大しています。

国宝級の古建築、伝統的な景観地域にできる高級ホテルから個人邸まで、引き合いが増えており、受注量の三分の一を占めるまで成長しているとのことでした。

道上さんは、瓦を使った外構、インテリア素材や小物類などの開発も積極的に取り組まれており、様々なメディアでも瓦の魅力を発信する活動をされています。今では、著名建築家から直接問い合わせや相談を受けることもあり、住宅や空間づくりをトータルにプロデュースする相談も受けられるとのことでした。大栄窯業の挑戦はまだまだ続きます。



Alegria Residence Utsubo Park 梶永一男

敷地は、四ツ橋筋を挟んで靱公園の東園を見渡せる絶好の位置にある。季節の移ろいを楽しめるように管理された都心のオアシスとなっていて、大阪では華のある人気の場所である。

敷地面積は、91.77㎡(27.77坪)と狭小地だった。鉄筋コンクリート造10階建、コンクリート打放しを望まれた。天空率を使い10階建にした。公園が美しく室内から見える方法を模索し、公園側からはどのようにすれば現況の街並みに馴染ませることができるかを考え続けた。

立面は、手前の古いビルを眼下に、公園の風景を楽しめるように[1階～5階]から[6階～10階]のファサードを公園側に顔を向け、より美しく全貌が見られるようにした。

敷地間口は6,062mmと非常に狭く、通常の1階柱型(1,100mm×1,100mm)では1階貸店舗としての機能を果たせず、プログラム上の問題となった。そこで、柱型を長方形(700mm×1,500mm)4本に、EVシャフトを5本目の柱と見立て、構造計画をした。

平面は、EVシャフトを介して東側に屋外避難階段、西側にサンタリ、避難用バルコニーをレイアウトして、二方向避難ルートを確認した。

住戸は、靱公園の場所性を考え、多様性に満ちたテナントのニーズが考えられ、ワンフロアー(53.66㎡)貸し、スケルトン・インフィルに配慮した。

撮影：松村芳治 第11回建築人賞奨励賞受賞作品

■プロフィール

梶永一男
1950年 大阪市生まれ
1973年 二科展(絵画部門)入選
1978年 西林建築設計事務所
2月～10月 ヨーロッパ人旅
1980年 梶永一男建築研究所設立
1989年 大阪府建築コンクール渡辺節賞受賞
[春夏秋冬]
2000～2010年 梅花女子大学非常勤講師
2006年 第52回大阪府建築コンクール審査員

■建物データ

建 築 主：デジタルアト
設 計：梶永一男建築研究所
施 工：貴山建設
所 在 地：大阪市西区靱本町1-7-13
用 途：店舗付き共同住宅
竣 工：2018年1月
構造規模：鉄筋コンクリート造 地上10階
敷地面積：91.77㎡ (27.77坪)
建築面積：69.02㎡
延床面積：523.89㎡

